

# 床工事の需要は増加気味

## デッキ材の採用にも注力図る ケーワンシステム

商業施設などでは屋上でも利用されることで、よりデッキシステムに性能が求められる



の床(デッキ)について原田社長は「2021年は体育館などの木材デッキ材+K11デッキ」で求められる適度な硬さと軟らかさを取り入れたシステム。耐久性、耐荷重性能、試験や転倒衝突時の硬さ試験を行い、使用時の安全性を証明し、国産材などの活用もできる。

安全性が確保されたデッキシステムとして、文教施設の特約店でもある。床工事とともにオリジナールの高性能デッキシステム「K11デッキ文を可能にした「文教P Layerタイプ」の供給で知られている。

同タイプは、体育館に二重床の供給と施工

21年(令和3年)は体育館などの木材デッキ材+K11デッキ)を行って、同試験では、予定された地震波形(各種耐震試験規格)の加振すべの試験で試験値をクリアしている。同試験の詳細は、同研究機構のなかで取りまとめ、今後耐震性能として発表していく。

同社が同試験を行った背景には、K11デッキがビルの屋上や大型商業施設など様々な外構工事で利用されており、そこで耐震性能も求められるようになっていくことがある。

同試験では、支持脚間隔を450mmで取った試験体と支持脚間隔を900mmにした試験体で、目標加速度600ガル及び980ガルの正弦波で1回ずつ加振した。加振後にデッキ板を取り外して、フレーム部分の破損を目視により確認したところ、破損は見られなかった。

耐震に加え、雨天での長期利用を想定し、天然木デッキや人工木の塩水噴霧試験も行った。この試験結果は、人工木仕様では目視確認の結果、白さびり、各種デッキ材シス

及びわずかな赤さびの発生が認められた。ただ使用される範囲が広がることも、耐震、耐久性などの性能がより求められる。当社ではそのような要望に応えるように、今後高性能デッキシステムであることを解説

キャンブ需要でデッキし、提案を広げていきたい」と語る。

原田社長は「コロナ禍での巣ごもり需要や、提案を広げていき



原田 社長

原田社長は「2021年は体育館などの木材デッキ材+K11デッキ)を行って、同試験では、予定された地震波形(各種耐震試験規格)の加振すべの試験で試験値をクリアしている。同試験の詳細は、同研究機構のなかで取りまとめ、今後耐震性能として発表していく。

同社が同試験を行った背景には、K11デッキがビルの屋上や大型商業施設など様々な外構工事で利用されており、そこで耐震性能も求められるようになっていくことがある。

同試験では、支持脚間隔を450mmで取った試験体と支持脚間隔を900mmにした試験体で、目標加速度600ガル及び980ガルの正弦波で1回ずつ加振した。加振後にデッキ板を取り外して、フレーム部分の破損を目視により確認したところ、破損は見られなかった。

耐震に加え、雨天での長期利用を想定し、天然木デッキや人工木の塩水噴霧試験も行った。この試験結果は、人工木仕様では目視確認の結果、白さびり、各種デッキ材シス

及びわずかな赤さびの発生が認められた。ただ使用される範囲が広がることも、耐震、耐久性などの性能がより求められる。当社ではそのような要望に応えるように、今後高性能デッキシステムであることを解説

キャンブ需要でデッキし、提案を広げていき

たい」と語る。